

# 医薬品安全使用ニュース

## 炭酸リチウム投与中の血中濃度測定について

効能・効果：

躁病および躁うつ病の躁状態



血清リチウム濃度（トラフ値）

1.5mEq/Lを超えたとき  
→ 必要に応じて減量又は休薬

2.0mEq/Lを超えたとき  
→ 減量又は休薬（過量投与による中毒のおそれ）

### 概要

**炭酸リチウムは、適正な血中濃度が保たれない場合、リチウム中毒に至る可能性があります**

**炭酸リチウム投与中の血中濃度測定遵守について、PMDAより適正使用のお願いが発出されております※**

※PMDAからの医薬品適正使用のお願いNo.7 2012年9月、更新2025年9月  
<https://www.pmda.go.jp/files/000277130.pdf>

### 注意すべきポイント

**炭酸リチウム投与中は、以下の頻度をめどに定期的に血清リチウム濃度を測定してください**

投与初期又は用量を増量したとき

維持量の投与中（維持量投与開始後の期間）

維持量が決まるまでは  
**1週間に1回**をめどに血中濃度測定

**2～3か月に1回**をめどに血中濃度測定

**定期的な測定に加え、以下の場合には血清リチウム濃度を測定してください**

#### ●血清リチウム濃度を上昇させる要因が認められる場合

食事・水分摂取量不足、脱水を起こしやすい状態、腎機能低下が認められる状態、血中濃度上昇を起こす可能性がある薬剤（非ステロイド性消炎鎮痛剤（NSAIDs）等）の併用開始 等

#### ●リチウム中毒の初期症状が認められる場合

食欲低下・嘔気・嘔吐・下痢等の消化器症状、振戦・傾眠・錯乱等の中枢神経症状、運動障害・運動失調等の運動機能症状、発熱・発汗等の全身症状

**患者及びその家族にリチウム中毒の可能性を説明し、中毒の初期症状があらわれた場合には医師の診察を受けるよう、指導してください**